

全国土壌調査プロジェクト –放射能防御プロジェクト–

放射能防御プロジェクトは、福島第一原発事故により拡散した放射性物質が、日本全土にわたってどのように降下したのかを明らかにするために、全国土壌調査を実施。

土壌調査に参加した市民は、それぞれの場所で土壌を採取し、同一の分析機関（同位体研究所）で核種検査（ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137）を行った。

* 検査方法は、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法で、使用機器の検出限界値は 1Bq/kg。

土壌の採取は、分析機関の指示に従い、表面から深さ 5 cm の円柱状で土壌を採取。調査地域に偏りが無いよう、出来るかぎり調整したが、どうしても調査希望者が見つからず、調査できなかった地域もある。

<結果>

東京都のセシウム合計平均：**462Bq/kg** だった。多摩地域は都内では汚染度は低い。東京 23 区だけで見ると数値は上がり、**600Bq/kg~900Bq/kg** の汚染。東京 23 区は、放射線管理区域と同じレベルにまで汚染されている。

関西は、ほとんど汚染されていない。

23 年 8 月 8 日

参議院議員会館 (B104) にて、この土壌調査の結果について、放射能防御プロジェクトが記者会見を開いた。